

**事業所名** グループホームゆうゆう館  
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成18年 7月12日

**評価機関名** ㈱東京リーガルマインド  
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

**評価調査員**  
A:現職 看護師  
資格・経験 看護師、介護支援専門員  
B:現職 障害者自立支援調査員  
資格・経験 介護福祉士、介護支援専門員

**自主評価結果を見る** (事業者の自主評価結果にリンクします)

**評価項目の内容を見る** (評価項目にリンクします)

**事業者のコメントを見る (改善状況のコメントがあります!)**  
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

Ⅰ 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	<b>グループホームとしてめざしているものは何か(記述)</b>		
	<p>心のあり方として「福祉は人なり」を重視し、具体的に「1相手の立場に立つ心 2その人の全てを受容する心 3自分を見返る心 4責任と自信を持つ心 5心と心の繋がりを大切にすること」を掲げている。</p> <p>介護者の姿勢として、「1その人らしく生きて行かれるよう援助する 2プライバシーを守り、規制のない自由な暮らしを営むことが出来るよう援助する 3能力を活かした役割分担により、充実した生活が営めるよう援助する 4一人一人の人生経験と尊厳を重視 5愛と情を持ち、共に喜び、共に悲しみ、共に生きるよう援助できること」を掲げている。管理者と職員は、入居者それぞれがその人らしく自由に生活するのを支えており、理念を具現化して良いケアに反映するよう努めていることが伺えた。</p> <p>入居に至るまでの経緯を職員が充分理解し、混乱や興奮などを受け止める包容力を忘れないようにしている。</p> <p>系列のグループホームからの訪問やデイサービスへの訪問、地域の秋祭りなどの行事にも参加して充実した社会生活ができるように支援している。</p>		

Ⅱ 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	<b>入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)</b>		
	<p>居間からの眺めが良く、菜園にはキュウリ、トマト、ナス、パセリ、エンドウ豆などの季節の野菜が植えられており、自然に外に出たくなるような雰囲気がある。</p> <p>常に職員と入居者が一緒に過ごしており、管理者の弾く大正琴に合わせて昔懐かしい歌を歌ったり、雑物をしたり、職員に下肢をマッサージしてもらったり一人ひとりが思い思いに自由に過ごされていた。入居者それぞれの話しかけを無視せず、ゆっくりと充分に話を聞き心身ともに安定してもらうよう支援している。</p> <p>管理者を始め、職員が明るい笑顔で種やかに接している。入居者同士が言い合いになった時も、自己表現・自己主張の場として職員がいつもゆったりと笑顔で受けとめ、他の入居者が安心して過ごせるよう見守っている。</p>		

Ⅲ ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人で行えることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

外部評価の結果

**概評**  
全体を通して特に良いと思われる点など(記述)

ホーム周辺は、保健保安林、国立公園などの名勝地に指定されている。その他にもテニスコートやゲートボール場、桜が約2万本植林されており、1年を通じて野鳥のさえずりが聞こえる。近くに国民宿舎おかもやま桃太郎荘もあり、四季の変化を感じ取り自然環境にも恵まれたロケーションである。

系列のグループホーム海の見える家1号館・2号館、生活支援ハウス、デイサービス、在宅支援センター、ヘルパーステーション小車など高齢者福祉のネットワーク作りがなされており、その一環を担っている。

「最期までここで看てもらいたい。」と望まれる家族が多く、希望者には家族的な環境の中で最期を看取れるようターミナルの受け入れについても検討中である。

提携医療機関として光南台クリニック、くましる歯科医院があり、定期的に往診が受けられ、緊急時の対応としてはセントラルシティ病院がある。入院の出来る総合病院もあり、医療との連携も取れている。

代表者自ら食材の買出しや環境整備をされるなど、高齢者福祉への思いが熱い。入居者の立場に立ち家賃も比較的安く設定されており、経済的な面からも入居者本位に良心的に配慮されている。

**特に改善の余地があると思われる点(記述)**  
請求書を送る時には入居者の近況を記録した便りも一緒に出している。今後は、定期的に「ホームのたより」を出すように工夫されてはどうか、情報の記載方法によっては地域への啓発にも使えらると思う。

近所に店舗がないという立地上の問題もあり、入居者が買い物したりお店に行く機会があまりない、その分、散歩や草取りなどの機会を増やして気分転換を図られると良いと思う。

Ⅳ ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	<b>一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)</b>		
	<p>操作りや雑物の得意な方、詩や文章を書くのが好きな方など入居者の経験を活かし、それぞれが没頭できることを掘り起こすようにしている。顔線を作りその中にそれぞれの思い出の花や写真を入れて飾ったり、おざり絵・塗り絵などの適度な作業を通して日常生活の意欲、希望の表出に繋げている。壁のぼりやあじさい、杜若など季節感のある作品を目にした。</p> <p>入居者の生活歴・経験を踏まえ、残存機能に合わせて米とぎや野菜の皮むきなどの下ごしらえ、食器洗いなどの後片付けや洗濯物たたみなどをしており、それぞれが役割をもって自然に生かされるような環境作りを基本としていた。病院で寝たきりだった方が、ホーム生活の中で意欲を持ち、歩けるようになって精米に励んでいる方もおられた。</p> <p>個人情報の利用目的を書類で明示しながら説明し、同意書に承認印を押印してもらっている。写真などの掲載も本人や家族の同意を得て実施している。</p>		

Ⅳ 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	<b>サービスの質の向上に向け日頃から、また、関係発生を契機として、努力しているものは何か(記述)</b>		
	<p>管理者はサービスの質の向上のため、職員の研修に力を入れている。採用時研修として精神障害や問題行動などの基礎的な知識や技術の習得が出来るように書類を整備し、継続研修では集団指導などに年3~4回参加し、研修内容を全員に伝え情報の共有に努めている。</p> <p>一寿会の系列グループホームの管理者が、月1回話し合いを持ち情報交換や入居者が他ホームのイベントに参加する等の協力体制を取り、サービスの質の向上に努めている。</p> <p>管理者介護では、認知症介護について常に勉強・研修会を重ね、ホーム内での勉強会に活用し職員のレベルアップに努めると共に気づきや振り返りのチャンスにして、より高度な介護を提供できるよう努めている。</p> <p>緊急時対応マニュアルが整備され、慌てず冷静に行動出来るよう指導している。また、身体拘束廃止マニュアルにより、拘束しないための介護の本質に立ち返る姿勢など介護の基本を押さえている。</p> <p>家族間が次第に疎遠になり、入居者の経済的支援は援助しても精神的な面が希薄になっているケースもあり、職員は家族間のパイプ役となり、家族の絆の回復になればと努力している。</p> <p>管理者が中心となり、ヒヤリハットを漏らさずに記録する体制を取り、状況・原因を更に検討・分析することにより、全職員に問題の共有化を図り事故防止に繋げている。</p>		